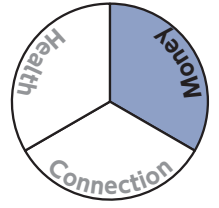


欧州

～ポスト・メルケルの動きが再始動～



経済調査部 首席エコノミスト 田中 理 (たなか おさむ)

ドイツ与党が新たな党首を選出

2021年の欧州の最大の政治イベントは、秋に予定されるドイツの連邦議会選挙だろう。東西ドイツ統一を果たしたコール首相に並び、16年にわたってドイツ政界を引っ張ってきたメルケル首相は、今回の選挙で政界の一線から退く方針を表明している。各種の世論調査では、コロナ危機対応で評価を高めた現与党・キリスト教民主同盟 (CDU) が他党を大きくリードしている。CDUは1月中旬の党大会で、ノルトライン=ヴェストファーレン (NRW) 州首相のラシェット氏を新党首に選出した。ドイツで最大の人口を誇る同州は日本企業の進出も盛んで、州都デュッセルドルフには欧州内でロンドン、パリに次いで日本人が多い。

ラシェット新党首は派手さこそないが、堅実な政治手腕に定評がある。党内で中道リベラル派の人物として知られ、メルケル路線の踏襲者とされる。ただ、CDU内にはメルケル時代に中道化した党の保守回帰を求める勢力も少なくない。新党首として党内をどうまとめるかとともに、春の州議会選挙の行方が、後継首相候補としての地位を固められるかどうかの試金石となる。世論調査で圧倒的な人気を誇るのは、姉妹政党・キリスト教社会同盟 (CSU) の党首でバイエルン州首相のゼーダー氏。両党は春に首相候補を一本化する。

高まる緑の党の政権入り

世論調査が示唆する通り、CDUが秋の議会選で勝利した場合も、単独での過半数獲得は困難とみられている。ラシェット氏がNRW州で連立を組むリベラル政党・自由民主党 (FDP) との連立も議会の過半数に届かない公算が大きい。過去2回の政権で連立を組んだ中道左派の社会民主党 (SPD) は、連立下で独自色の発揮に苦しみ、党勢低落から抜け出せていない。連立への再参加には否定的だ。また、CDUはドイツのための選択肢 (AfD) と左翼党 (LINKE) の左右両極の政党とは、手を組まない方針を明言している。残る連立相手としては、環境政党・緑の党以外にない。

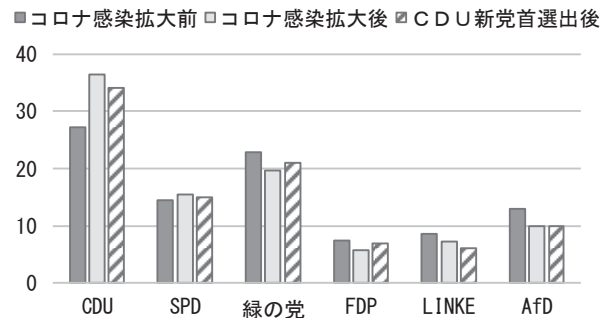
かつては過激な抗議運動や極端な政策主張が目立った緑の党も、1980年代に初めて連邦議会で議席を獲得した後、1998～2005年にSPD主導の連立政権に参加するなど、国政での実績を積み重ねてきた。保守政党と環境政党による連立政権は、州議会レベルでは前例があるが、国政レベルで初の試みとなる。国防や北大西洋条約機構 (NATO) 政策を巡って両党間の溝は大きい。CDUも環境重視の方針を打ち出しており、気候変動対策の推進加速につながる事が予想される。コロナ禍で財政黒字の維持が難しくなっており、財政規律重視の姿勢が緩和するかどうかにも注目が集まる。

資料1 ドイツ連邦首相に相応しいのは誰か?

[「はい (相応しい)」と答えた割合、%]	
ゼーダー・バイエルン州首相 (CSU)	54
ショルツ財務相 (SPD)	45
シュパーン保険相 (CDU)	32
レットゲン元環境相 (CDU)	29
メルツ元院内総務 (CDU)	29
ハーベック共同党首 (緑の党)	28
ラシェット・NRW 州首相 (CDU)	28
ベアボック共同党首 (緑の党)	22

(注) 1月10～12日にドイツ全土を対象に調査
(出所) Forschungsgruppe資料より第一生命経済研究所作成

資料2 ドイツ政党別支持率調査 (%)



(注) 2020年以降の調査を対象とした平均値
(出所) Infratest dimap資料より第一生命経済研究所作成